

「素晴らしい5日間」

横浜市立大学 国際総合科学部 3年 富樫彩乃
(配属先：呼吸器形成研究チーム)

私は大学に入学してから発生再生の分野に興味を持つようになり、その中でも特に再生医療について興味を持っていました。このインターンシップの存在を知り、自分の興味を深める良い機会になればと思い応募しました。器官の形成過程を学ぶことが器官の再生にもつながると考え、呼吸器形成研究チームに5日間お世話になりました。

今回は肺の細胞増殖と分化の関係について考察するというテーマで、マウスの胎児から形成途中の肺を取り出して切片を作ったり、増殖や分化マーカーを観察したりする際に様々な機器を使用しました。中にはとても高価な顕微鏡もあり、壊してはいけないと思い、操作するのにとても緊張しました。

研究室、特に理研の研究室ともなると、とても忙しいイメージがありました。そのため、今回のインターンシップでは課題を与えられて、それを自分たちだけで進めていくものだと思っていました。しかし、実際はそんなことはなく、機器の使い方から考察、発表方法までほとんど付きっきりで指導していただきました。時には夜中まで解析方法について研究室のメンバーの皆さんと一緒に考えたこともありました。実験以外にも、様々な話をする機会がたくさんあり、メンバーの皆さんからCDBでの生活について、研究生活について、などたくさん教えてもらうことができました。

またオープンラボや交流会では他の研究室の方々と話す機会もありました。他愛のない話や、なぜ今の研究をしようと思ったのかなど研究の話、また今後どうしていけばよいかのアドバイスを頂いたりして、実際に研究している方々と深く話をすることができたと思います。

CDBの方々以外にも他のインターンシップ生とも交流することができました。このインターンシップに参加している人たちは、みんな将来についてとても考えていて、自分ももっとしっかり将来について考えなくてはいけないと感じさせられました。

今回のインターンシップを通して、研究者になりたいという気持ちをさらに強くしました。この5日間でもたくさんの貴重な経験をすることができたと思います。この経験を糧にして将来に向かってさらに頑張っていこうと思います。

最後になりますが、このような貴重な体験をさせていただいた呼吸器形成研究チームと他のCDBメンバーの方々、そして事務局の方々、また、同じインターンシップ生の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



研究発表会での富樫彩乃さん（右）